

道守九州会議

未来につなぐ
ひと・みち・まち

交流会 2007

12/8 sat 9 sun



meet you
~Nice to 道遊~
in ふくおか

みちづくし
in ふくおか

会場

福岡国際会議場・5階

(福岡市博多区石城町)

主催／道守九州会議・道守ふくおか会議

共催／福岡自動車博覧会実行委員会

後援／国土交通省九州地方整備局・

福岡県・佐賀県・長崎県・

熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・

福岡市・北九州市・九州幹線道路協議会・

西日本新聞社・佐賀新聞社・長崎新聞社・

熊本日日新聞社・大分合同新聞社・

宮崎日日新聞社・南日本新聞社・

(社)九州建設弘済会



道守とは…… 「道」を舞台に、あるいはテーマに、さまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。

「道守九州会議」は、九州各地で「道」に関する行動を行うNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等で構成する任意団体です。

道路行政機関や自治体と連携し、民と行政との「協働」を基本に活動をしています。

道の縁で出会い、結ばれた絆。

九州が育んだ「道守」の心を紡ぎます。



オープニング

主催者挨拶では道守九州会議代表世話人・鈴木武氏が、今年の交流会のテーマ「未来につなぐひと・みち・まち」について、少子・高齢化が進み高齢者の住む割合が50%を超える「限界集落」が九州でも全集落の約11%，1633を数えており、これを救う有効な手立ての一つが道守活動であり、住民自身の社会貢献と社会意識の向上にあると語られました。

幸いにも道守活動賛同者は06年の1・5倍、4万5千人（07年10月現在）に増え、21世紀、九州は生き残れると確信。これから道守活動について①道守活動のさらなる発展②地域プロックならびに県会議連合活動の活発化と合理的な運営③九州風景街道」の推進の3点を提案されました。

来賓挨拶では、まず国土交通省九州地方整備局長・鈴木克宗氏が「モーターショーとの同時開催に意義。生活空間としての道をとり戻す活動、情報発信」と、福岡県副知事の武居丈二氏は「時代の要請を踏まえたきめ細やかな道路整備と、住民と一体となつた道づくり」、福岡市副市長の高田洋征氏は「アジアの交流拠点都市として役割・位置づけを強める福岡市での開催は意義深い」とそれぞれ挨拶がありました。



福岡市副市長
高田 洋征 氏



福岡県副知事
武居 丈二 氏



国土交通省九州地方整備局長
鈴木 克宗 氏



道守九州会議代表世話人
鈴木 武 氏

基調講演



福岡大学名誉教授
武野 要子 氏

●略歴●

1929年静岡県生まれ。
九州産業大学助教授、福岡大学教授、兵庫大学教授を経て現職。

博多町人を通して近世の貿易史を研究、「自分の足で歩いて、まちの共同体の中に入っていく」ことを信条とされています。

著書に、「博多町人 崇華と経営手腕」、「悲劇の豪商・伊藤小左衛門」、「博多一町人が育てた国際都市ー」など多数。

見舞われ、生還できた兵士はわずかでした。

東アジアの中の福岡 ～海と陸から～

日本列島の西南端に位置する九州の北部・福岡は、九州と本州を結ぶ要であり、中国大陸や朝鮮半島とは一衣帶水の地であります。陸路と海路のいずれからみても、福岡は大変重要な地点であったことは、その豊かな地域史をひもとけば一目瞭然です。

たとえば「金印」と「元寇防壁」は日本広しいといえども、福岡にしかありません。金印は博多ではなく志賀島で出土しました。古代に奴國（福岡）の外交や通商を担つた人々が、外来船が必ず寄港する志賀島を使い管理したからだといわれています。

文永年間に蒙古襲来で大被害をうけた北条氏は、海岸に石垣を築きました。それが防壁です。弘安の再来襲では、ものの見事に効果を發揮。伊万里沖の鷹島で博多攻撃をうかがっていた蒙古軍船は猛烈な風雨に

最後に、皆様のご発展をお祈りし、お話を終わりにいたします。

「道守九州会議交流会2007 みちづくし in ふくおか」が平成19年12月8日(土)・9日(日)の2日間、福岡国際会議場(福岡市博多区)で開催されました。4回目となる今年のテーマは「未来につなぐひと・みち・まち」。

8日の交流会には約410名が参加、九州7県の道守会議の会員が一堂に集い、道を舞台にしたさまざまな社会貢献活動について語り合い、交流を深めました。

ここでは当日の様子をダイジェストでご報告します。



12/8 sat

13:00~19:45

※敬称略

交流会

オープニング

- 主催者挨拶 道守九州会議代表世話人 鈴木 武
- 来賓挨拶 国土交通省九州地方整備局長 鈴木 麻生
福岡県知事 武居 吉田
(代理／福岡県副知事)
福岡市長 高田 洋征
(代理／福岡市副市長)

基調講演

「東アジアの中の福岡～海と陸から～」

- 講師 福岡大学名誉教授 武野 要子

第1部 報告会

テーマ：未来を担う子どもたち

第2部 分科会

- 第1分科会 テーマ：さまざまな道守活動
- 第2分科会 テーマ：人と車が共存する道
- 第3分科会 テーマ：道からの美しい地域づくり

第3部 分科会報告

道守九州会議総会 交流集会

12/9 sun

10:00~16:10

学習会

(主催／九州風景街道推進会議・国土交通省九州地方整備局)
日本風景街道シンポジウム in 九州
～世界から日本・九州へ 人と道と風景をつなぐ～

第1部 報告会

未来を担う子どもたち

第一部報告会は、濱砂圭子氏（NPO法人男女・子育て環境改善研究所理事長）がコーディネーターとなり、6県16人の小学生・高校生が登場。報告された内容は道路の清掃活動や環境問題、地域の歴史や文化、アンケート調査を基にした魅力的な観光ルートの提案まで幅広く、次世代の「道守さん」パワーに圧倒されました。

地域の人たちとのクリーン共同作戦から一步進んで、人にごみを捨てさせない工夫（福岡、宮崎）、人々の心をなごませる「フーラワード大作戦」（佐賀）、お土産店の適正な配置など新しい視点での観光の活性化を探る（長崎）、地域の歴史や文化を学ぶ（熊本）、危険箇所を実地調査した安全マップづくり（鹿児島）など子どもたちの真剣な取り組みに感激しました。

課題の発見力、解決能力、そしてプレゼンテーション力、コミュニケーション能力の高さ――こんな子どもたちが九州に育っていることをとても頼もしく思います。未来を担う子どもたちに、大人はツケを回すのではなく、より良い環境を残し、誇れる地域づくりをしていかねばならないということを子どもたちから教えられました。



コーディネーター 濱砂圭子
NPO法人 男女・子育て環境改善研究所理事長

第2部 分科会

第1分科会

さまざまな 道守活動



コーディネーター 山田三代子
道守柳川ネットワーク代表

第1分科会は、山田三代子氏（道守柳川ネットワーク代表）がコーディネーターとなり、九州7県の代表者からそれぞれのユニークな活動が報告されました。

福岡の花井氏は、北九州市道路サポーター制度について紹介。現在62団体、約4900名が北九州市と協働で美しい町づくりに取組まれているそうです。小役丸氏、花田氏からは花植えや清掃活動などの紹介に加え、八幡東区の「果樹支え隊」が紹介されました。地元ではレモンロードと呼ばれ、収穫したレモンを素材に銘菓誕生の動きもあるようです。

佐賀の中島氏、池田氏からは「佐賀城下ひなまつり」開催前に行なうおもてなしの清掃活動、唐津市巖木で19年間も花を植え続けている「牧瀬杏会」、長崎街道や唐津街道をめぐるツアーや道守体験事業や他県道守会議との交流事業が紹介されました。

長崎の井手氏は、清掃による落葉や生ごみを堆肥にして花や野菜を育てる、循環型を活用した環境美化と地域づくりについて報告されました。熊本の草野氏からは、地球と人に優しい町づくりに関する事業、「優しい、楽しい、ベロタクシー」（自転車タクシー）が快走、小学生から高齢者まで大好評というお話しでした。



た。
という夢が
語られまし
た。
沿線を花一
杯にしたい
389号線
がる国道
4県にまた
84に成長、
名でスター
トした「花
を咲かせ
隊」が、団
体、個人の
会員登録で
地元・多くの清掃はもちろん、他の県との交流会で意見交換、ユガーロード検定など道を知つてもらうイベントを行っています。

「これ、マイツリーなの：」大分の倉堀氏からは、別大国道でのマイツリー活動が紹介されました。植樹体験をし、愛称をつけた「マイツリー」の成長を楽しみながら、道路の清掃活動を行うというものです。

宮崎の長友氏からは鶴戸街道を山桜で飾ろうという長期計画、九州風景街道・日南海岸きらめきラインのイメージアップなど、東国原宮崎県知事の「どげんかせんといかん」パワーを上回る熱いお話しでした。

鹿児島の太田氏からは、阿久根市でわずか7名でスタートした「花を咲かせ隊」が、団体、個人の会員登録で地元・多くの清掃はもちろん、他の県との交流会で意見交換、ユガーロード検定など道を知つてもらうイベントを行っています。

活動を長く継続させるためにも、他の団体とのネットワークづくり、情報交換が大切です。

「おおあざ清創の会」のネーミングの精神を忘れず清掃後のすがすがしさをみんなに！



▲中島 三毅 氏
道守佐賀会議事務局



▲池田 廉子 氏
ロードネット佐賀



▲花井 由美子 氏
北九州市道路サポーター

▲小役丸 シゲ子 氏
北九州市道路サポーター



▲花田 佐恵子 氏
北九州市道路サポーター



▲太田 信子 氏
花を咲かせ隊隊長

「若い、きれい、元気」の褒め言葉にのって「花を咲かせ隊」を結成。隊員募集の手紙「追伸、これは美しいマダムのみにお知らせしています」と書かれています。



▲長友 治 氏
鶴戸山をかっしやる協議会会長

植て5年目の山桜の前でハイポーズ！あと5年したら国道から見える高さになります。その時は、私は古稀になってしまい、この木に負けないように成長していきたい。



▲倉堀 敦子 氏
道守大分会議マイツリー会員

マイツリーは「頑張る木」から「ばあばの木」に成長。今は細く長い「頑張る木」を見守り、この木に負けないように成長していきます。



▲草野 泰宏 氏
NPO法人
熊本ホスピタリティネットワーク理事長

民謡「おてもんやん」と「肥てまりうた」の二つと熊本城をつなぐ道を考えています。道をコミュニティの場として活用、楽しい町づくりの輪が広がっています。



▲大津町立室小学校6年 芹川 愛実さん、吉岡 夏生さん

肥後藩参勤交代の歴史学習をしました。熊本城→大津→阿蘇→久住→大分鶴崎まで31里（約124km）の豊後街道建設や大津街道の杉並木のサプライズ活用法など。6年生学年行事の熊本城→室小学校20kmナイトハイクも歴史を学んだことで一層楽しくなりました。



▲長崎女子商業高等学校2年 泉田 ゆきさん、山口 宏美さん

長崎には、神の島教会、高鉢島、四部が島など從来の観光ガイドブックには紹介されていない魅力的な名所や旧跡、歴史、文化が数多くあります。点在する観光資源を線として結ぶことで新たな観光ルートを創設したい。ライトアップされた女神大橋はきれいですよ。



▲佐賀市立嘉瀬小学校6年 永渕 幹くん、山下 雄大くん

平成13年、5年生女子の「近くにコスモス通りがあつらいいね」とのひと言から嘉瀬フラワード大作戦が始まり、休耕田を利用しバルーン大会に満開になるようにコスモスの花園を作るなど、花の道を広げています。



▲延岡市立下赤小学校6年 逆瀬川 真樹くん、坂元 葉さん

6年生71名で校区内道路の安全マップ作りに取り組みました。感じたことは①通学路は車が多く歩道が狭い②車はゆっくり走って欲しいなど。問題点に自分たちが気づく目を持つことが大切です。



▲延岡市立三川内小学校6年 佐伯 茜さん、松尾 優佳さん

三川内ひかり児童クラブでは国道388号とMKD作戦（三川内大清掃）を行っています。国道沿いのごみの多い場所2カ所に「立て札」を立てたところごみが減りました。作戦大成功でした。

第2分科会

人と車が 共存する道

第2分科会は、大貝知子氏（株式会社大貝環境計画研究所代表取締役社長）がコーディネーターとなり、4人のパネリストから北九州、福岡、長崎、鹿児島の各都市の現状や活動状況などが報告されました。

まず、福岡の井上氏は、以前に北九州市の副都心と位置付けられた黒崎地区の大型再開発が不調に終わったことを指摘。大切なのは住民の町への愛着、誇りづくりであるとし、「長崎街道」を屋台骨にした歴史、文化、自然を生かした、人に優しく魅力のある町づくりへの取組みなどを紹介。また、道を舞台にした伝統的な祭りや、ウォーキング、飛脚駅伝、インフィオラータ（イタリア語で「花を敷きつめる」という意味）といったイベントを通じ、人が主役の道を取り戻す時代がきたのではないかというふうに語られました。

田川氏は、福岡市天神地区の集客と都市化の問題を挙げ、車社会による中心市街地の空洞化や渋滞による環境問題、安全やマナーの悪化などが懸念される中、2006年に設立された「We Love 天神協議会」の活動を紹介。道路や歩道上、また物流パーキングへのオープニングカフェや花壇の設置、おしゃりロードや清掃活動など、歩いて楽しい町づくりを推進しておられます

す。ただ実施期間の限定など各事業者との合意形成の過程では大変な一面もあるとか。最後に、天神の街をもっと好きになつてもらうために、今後も粘り強く議論していきますと力強くコメントされました。

長崎の杉山氏のご専門は都市計画と都市交通計画。今回、斜面市街地の比率を提示され、長崎市が全国でもトップクラスに高く、結果として人口の減少や高齢化の進展を招いていると話されました。この問題への対策として、斜行エレベーターや、市道への設置としては全国初となる小型モノレール、長崎市がタクシーハブに委託して運行している乗降り合いタクシーなどを紹介。また昨年開催された「長崎さるく博」では、市民の観光資源に対する意識、道に対する意識、道に對



コーディネーター 大貝知子 氏
株式会社大貝環境計画研究所
代表取締役社長



鹿児島の東川氏は、大河ドラマ「篤姫」の影響で、観光地でもなく、これまで素通りしたこと、我が町の魅力を見つめ直すことでの価値を伝える人材が大切だというお話をしました。これから道のあり方についても「この道楽しいね」とか、「おもしろいね」といった数字で計れない感性や感情、快適性といつたものもベースにした整備方法があつてもいいのではありませんかと提案されました。道守会議の皆さん、活動は、町への愛着心を育て、歴史を受け継ぎ、次世代につなげる活動であり、今後、日本風景街道の取組みにも合致していくのではないかでしょうか。

第3分科会

道からの美しい 地域づくり



コーディネーター 森 将彦 氏
道守九州会議副代表世話人

第3分科会は森将彦氏（道守九州会議副代表世話人）がコーディネーターとなり、長崎、大分、宮崎、鹿児島の4県代表と、行政側を代表し赤星文生氏（九州地方整備局道路部地域道路調整官）が出席。いずれも九州風景街道にかかわっておられる皆さんです。

まず、長崎の阿野氏からは、平成15年に実施した国道34号線を調査した中から、諏訪神社（長崎市）近くの「馬町地下道」が暗くて汚く、バリアフリーではないなどの問題点が多いため、付近住民と連携しこれを改善した事例や、「長崎さるく博」に訪れる観光客のために諏訪小児童と一緒にウォーキングマップを作成するなどといった、道守活動を通じたネットワークの広がり、県内各地の活動の活性化、盛り上がりなどが紹介されました。

大分の久恒氏は、九州風景街道・九州横断の道やまなみハイウェイでの草原景観の保全、ゆづくり寄り道ツーリズム、自然と観光の共生などを柱にした取組みを紹介。草

木の必要性について語られました。

宮崎の谷越氏は、日南海岸の植栽活動や行政と連携した「景観診断」の取組み、マグロと堀川運河で栄えた油津で行われた「通り名で道案内」という社会実験を紹介。いずれも住民主役の地域に密着した活動であり、行政との連携を通じ地域の総合力が育っているという報告でした。

鹿児島の下津氏からは、鹿児島県坊津町、笠沙町といった第1次産業衰退、過疎と高齢化に悩んでいた地域が、自然の恵みや歴史を生かした「体験型観光」を導入。修学旅行生の農家民宿を行い、高齢者に先生になってもらった農漁業体験が大好評。08年度もすでに2300名の予約があり、市町村の広域連携による新しい地域産業の創出の可能性など良い波及効果があらわれていることが報告されました。

九州地方整備局の赤星氏は、風景街道の意義を話され、地域発のオリジナルな展開、継続できる仕組みづくりなど、道守活動は風景街道の枠組みにかなり近い

実験事業に果敢に挑戦して実践することでそのノウハウが蓄積、それがその地域を左右するものになるのではないかと思っています。

は、主に畜産業の変遷により景観維持が困難になった中、ボランティアグループの活動に委ねられている現状を報告。より良い景観づくりのために地域住民主役のプログラ

ムの実施に取り組んでいます。

▲赤星文生 氏
九州地方整備局道路部地域道路調整官
風景街道に求めたいものが二つある。志をしっかりと地域の資産を磨いて、来る人にどんな顔の道を用意し、地域をどう表現するか。連携と協力が大切です。

▲下津 公一郎 氏
NPO法人エコ・リンク・アソシエーション代表理事
実験事業に果敢に挑戦して実践することでそのノウハウが蓄積、それがその地域を左右するものになるのではないかと思っています。

▲谷越 衣久子 氏
九州風景街道 日南海岸さらめきライン事務局
津での「通り名で道案内」の社会実験でも地域の人々が主役でやれる形が望ましい行政のパートナーシップがすごく大きな力を發揮してくれました。

▲久恒 雄一郎 氏
道守長崎会議事務局長
「食」をテーマにするのもおもしろいのです。長崎は江戸時代から砂糖文化が発達している。砂糖をキーワードに他県とも連携したい。

▲阿野 史子 氏
道守長崎会議事務局長
「世間遺産」発掘と、町の魅力を伝える「よかとこ案内」を育てています。

▲東川 隆太郎 氏
NPO法人かごしま探検の会代表理事
道路や公園など斜面市街地のインフラ整備を。長崎市ではEST（環境的に持続可能な交通）に取組んでいます。

▲杉山 和一 氏
長崎大学環境科学部准教授
長崎街道を愛する会会長
LEDを使った電照松並木など…

▲井上 智明 氏
長崎大学環境科学部准教授
長崎街道を愛する会会長
LEDを使った電照松並木など…

▲田川 真司 氏
We Love 天神協議会ガイドライン部会交通ワーキング長崎街道と連携して、「歩いて楽しい天神」づくりに取組んでいます。

交流集会

ビーは約300名の参加者でうめつくされ熱気にあふれていました。



▲挨拶をする
国土交通省技監・谷口博昭氏



▲大勢の参加者で賑わった
交流集会

また、翌日の「日本風景街道シンポジウムin九州」の講師を務められる谷口博昭氏(国土交通省技監)、ヘンリー・ハンカ氏(アメリカ・バイウェイ・リソース・センター・特別プロジェクトマネジャー)も参加され交流を深められていきました。

年に一度の開催でもあり、日頃の活動内容や風景街道の取り組み、また県境を越えた連携の必要性を訴えるなど活発な情報交換が行われていました。

また、地元福岡の伝統芸能「博多にわか」の披露や、各県の道守会議から特産品が持ち寄られ、食談義も大いに盛り上りました。

最後に、道守ふくおか会議から来年の開催地、道守かごしま会議へと大会旗が引き渡され、盛況のうちに閉会となりました。

▼アトラクション「博多にわか」



▼道守ふくおか会議



2008年開催地の「道守かごしま会議」へと
引き継がれた大会旗



初日の交流会終了後に、井上信昭実行委員長より
大会宣言がなされました。



道守九州会議交流会 2007 大会宣言



みちづくしinふくおか実行委員長
井上信昭 氏

経済成長のエンジン役は、裾野の広い自動車産業。
大人たちの生活は、サンダル代わりのピカピカのマイカー。
子供たちのあこがれは、フェラーリやランボルギーニ。
そんなクルマ万能時代に身を置いて、
私たち道守はただ一筋に道を守ります、道をきれいにします。
まちを守ります、まちをきれいにします。そして人々の心を紡ぎます。

各県から持ち寄られた特産品



▲道守佐賀会議



▲道守長崎会議



▲道守くまもと会議



▲道守大分会議



▲道守みやざき会議



▲道守かごしま会議

お問い合わせ・連絡先

道守九州会議事務局 【(社)九州地方計画協会内】

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
☎092-473-1057㈹ FAX092-475-0533

道守ホームページ/<http://www.michimori.com/>
E-mail/michimori@michimori.com